

1 調査名称：瀬戸市都市交通マスタープラン策定業務

2 調査主体：瀬戸市

3 調査圏域：瀬戸市全域

4 調査期間：平成 25 年度～平成 27 年度

5 調査概要：

社会経済情勢の変化として、人口減少と高齢化による都市の生活を支える医療、福祉、子育て支援などの社会機能の低下、中心市街地等における人口流出と都市機能の拡散によるまちの衰退、環境負荷の高まりなどの諸変化に大胆かつ柔軟に対応するため、都市機能の維持・再生、集約型まちづくりの実現、環境対策など多面的な視点からのまちづくりが求められている。

瀬戸市が目指すべきまちづくりの実践に向けて、上位計画である瀬戸市総合計画、都市計画マスタープランに基づいた、道路や公共交通などの施設整備、交通需要マネジメントなどのハード、ソフト施策等の骨格交通体系について、中長期的な交通施策のあり方を定め、実行していくことが必要不可欠である。

そこで、土地利用と交通を一体的にとらえた将来の都市交通像を描くとともに、それを実現するための土地利用構想、骨格交通体系等を定めるため、都市交通マスタープランを策定する。また、このプランを具現化するため、平成 21 年度に策定した瀬戸市まちなか交通戦略の評価を行い、都市計画道路網の検証、交通結節点の整備推進、公共交通網の形成と利便性の向上など、総合的な交通施策を盛り込んだ都市交通戦略の見直しを行う。

## I 調査概要

### 1 調査名

瀬戸市都市交通マスタープラン策定業務委託

### 2 報告書目次

#### 1 将来都市像の検討

- (1) 人口フレーム
- (2) 土地利用フレーム
- (3) 産業フレーム（工業）
- (4) 交通分担フレーム

#### 2 都市づくりの基本的課題の整理

#### 3 将来交通施策の検証

- (1) 現行計画道路網

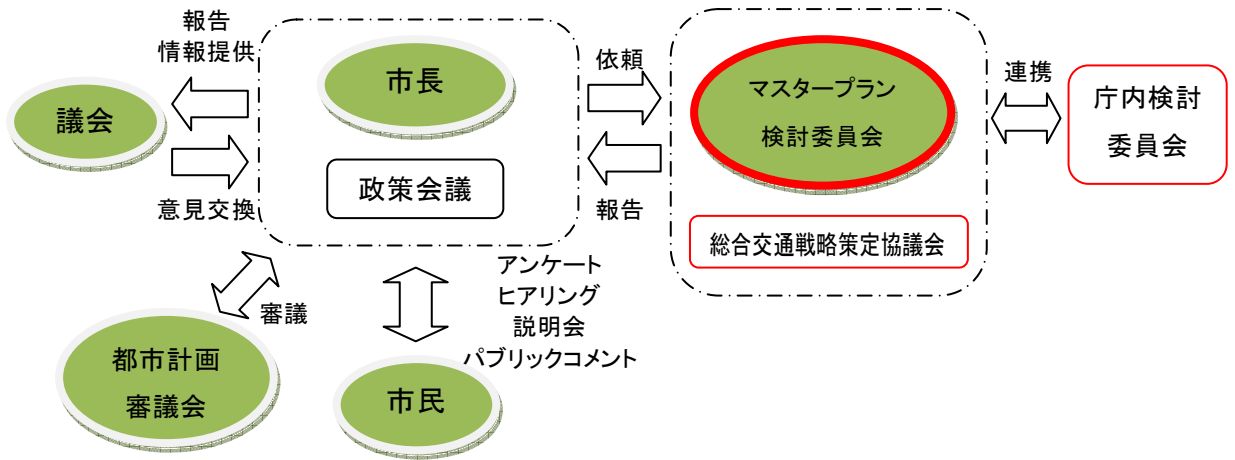
#### 4 瀬戸市まちなか交通戦略の評価

- (1) 検証項目の概要
- (2) 検証値の達成状況の検証

#### 5 都市交通マスタープラン骨子案（交通施策（案）の抽出）

- (1) 対応すべき交通課題の整理
- (2) 交通施策（案）の抽出

3 調査体制



瀬戸市都市計画・都市交通マスタープラン検討委員会 (委員長：中部大学 工学部 都市建設工学科 教授 磯部友彦)
瀬戸市総合交通戦略策定協議会 (会長：中部大学 工学部 都市建設工学科 教授 磯部友彦)
瀬戸市都市計画・都市交通マスタープラン庁内検討委員会 (事務局：瀬戸市都市整備部都市計画課)

4 委員会名簿等

(1) 瀬戸市都市計画・都市交通マスタープラン検討委員会

瀬戸市都市計画・都市交通マスタープラン検討委員会 委員名簿 (敬称略)

	所 属 等	氏 名
1	中部大学 工学部 都市建設工学科 教授	磯部 友彦
2	大同大学 工学部 建築学科 教授	嶋田 喜昭
3	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 准教授	鈴木 温
4	岐阜大学 地域科学部 地域政策学科 教授	三井 栄
5	愛知県立大学 教育福祉学部 教育発達学科 教授	山本 理絵
6	瀬戸商工会議所 会頭	
7	愛知県陶磁器工業協同組合 理事長	
8	瀬戸市農業委員会 会長	
9	瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会 会長	
10	瀬戸市自治連合会 副会長	
11	瀬戸市社会福祉協議会 理事	
12	瀬戸市小中学校 PTA 連絡協議会 会長	
13	名古屋鉄道(株) グループ統括本部 事業企画部 企画担当 課長	
14	愛知環状鉄道(株) 常務取締役	
15	名鉄バス(株) 運輸部 部長	
16	愛知県警察 瀬戸警察署 署長	
17	愛知県 地域振興部 交通対策課 課長	
18	愛知県 建設部 都市計画課 課長	
19	愛知県 尾張建設事務所 企画調整監	
20	瀬戸市 副市長	

(2) 瀬戸市総合交通戦略策定協議会

瀬戸市総合交通戦略策定協議会 委員名簿 (敬称略)

	所 属 等	氏 名
1	中部大学 工学部 都市建設工学科 教授	磯部 友彦
2	大同大学 工学部 建築学科 教授	嶋田 喜昭
3	瀬戸商工会議所 専務理事	
4	瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会 会長	
5	瀬戸市自治連合会 会計	
6	瀬戸市障害者団体連絡協議会 会長	
7	瀬戸市老人クラブ連合会 会長	
8	名古屋鉄道(株) 鉄道事業本部 土木部 建設課 課長	
9	愛知環状鉄道(株) 運輸部次長兼管理課長	
10	名鉄バス(株) 運輸部 部長	
11	瀬戸旭タクシー部会 会長	
12	愛知県尾張建設事務所 道路整備課 課長	
13	愛知県警察 瀬戸警察署 交通課 課長	
14	瀬戸市 都市整備部 部長	

## II 調査成果

### 1 調査目的

社会経済情勢の変化として、人口減少と高齢化による都市の生活を支える医療、福祉、子育て支援などの社会機能の低下、中心市街地等における人口流出と都市機能の拡散によるまちの衰退、環境負荷の高まりなどの諸変化に大胆かつ柔軟に対応するため、都市機能の維持・再生、集約型まちづくりの実現、環境対策など多面的な視点からのまちづくりが求められている。

瀬戸市が目指すべきまちづくりの実践に向けて、上位計画である瀬戸市総合計画、都市計画マスタープランに基づいた、道路や公共交通などの施設整備、交通需要マネジメントなどのハード、ソフト施策等の骨格交通体系について、中長期的な交通施策のあり方を定め、実行していくことが必要不可欠である。

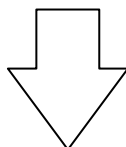
そこで、土地利用と交通を一体的にとらえた将来の都市交通像を描くとともに、それを実現するための土地利用構想、骨格交通体系等を定めるため、都市交通マスタープランを策定する。

本調査においては、都市構造及び交通の現状分析を行い、現況把握から各交通問題などを明らかにし、次年度以降の都市交通マスタープラン策定、都市交通戦略の見直しを目指す。

## 2 調査フロー

### I 都市構造・交通の現状分析

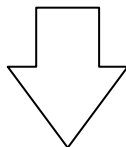
- 1 都市の現況把握
- 2 交通の現況把握
- 3 交通課題の抽出



今回調査

### II 交通将来像と都市交通像の基本方針

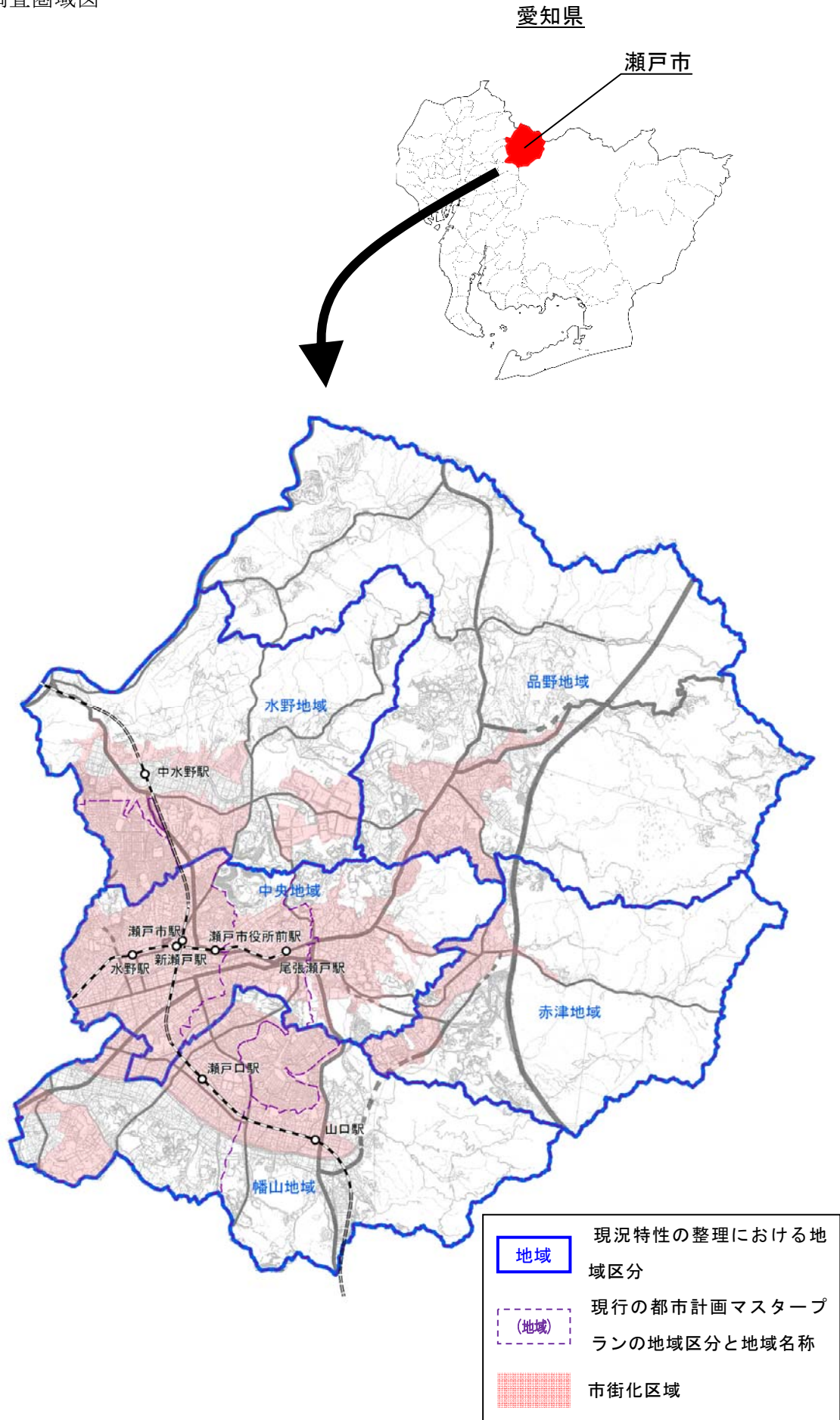
- 1 将来都市像の検討
- 2 都市づくりの基本的課題の整理
- 3 将来交通計画の検証
- 4 瀬戸市まちなか交通戦略の評価
- 5 都市交通マスタープラン骨子案



### III 都市交通マスタープランの策定及び施策具現化のための戦略策定

- 1 都市交通マスタープランの策定
  - (1) 都市の将来像
  - (2) 将来交通計画
- 2 都市・地域総合交通戦略の策定（見直し）（まちなか交通戦略を包含）
  - (1) 都市交通施策
  - (2) 都市機能集約施策

### 3 調査圏域図



## 4 調査成果

## 1 将来都市像の検討

## (1) 人口フレーム

- ・将来人口フレームは、第6次総合計画における将来目標人口を踏襲するものとする。

## (2) 土地利用フレーム

- ・1世帯当たり人員の少ない世帯の住替え（移転）を促進するため、駅周辺の生活利便性の高い地域での住宅地を創出する。
- ・移転後の住宅基盤の整った用地等を活用し、新たな宅地用地等を確保する。

## (3) 産業フレーム

工業フレーム（製造品出荷額等）の推計結果

単位：百万円

年次	直線式	対数式	累乗式	指数式
昭和60年	236,923			
平成7年	369,088			
平成17年	327,627			
平成21年	430,814			
平成24年	430,986			
平成37年(推計値)	478,643	425,849	436,688	509,333
決定係数R <sup>2</sup> 乗値	0.6348	0.6696	0.7137	0.6390

## (4) 交通分担フレーム

- ・公共交通の利便性を維持していくために、瀬戸市まちなか交通戦略の指標目標を踏襲した鉄道分担率を設定する。

## ■交通手段フレーム（鉄道）

年次	鉄道利用者数 【A】	総トリップ数 【B】	鉄道トリップ数 【C】	分担率 【D=C/B】
H23	1,436万人/年 (現況)	339,442トリップ (第5回PT調査)	39,800トリップ (第5回PT調査)	11.7% (第5回PT調査)
H37	1,540万人/年 (将来フレーム) ※まちなか交通戦略の目標を維持	328,127トリップ (第5回PT調査H37予測)	42,682トリップ (H23値に【A】のH23比率を乗じた値)	13.0% (D=C/B)

## ※鉄道以外の交通手段について

- ・バスについては、利用促進策を検討し、利用者数を維持・増加させる必要がある。
- ・二輪車（特に自転車）や徒歩は、都市の賑わい創出に直接的に寄与するため、二輪車や徒歩で出かけたと思うまちづくり、徒歩や二輪車によるアクセス環境の改善等の必要がある。

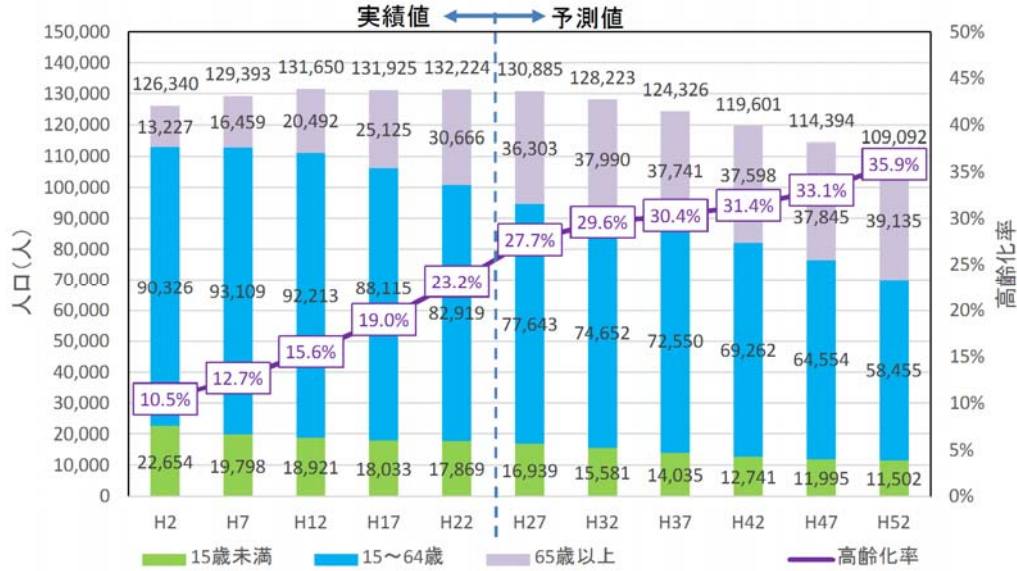


## 2 都市づくりの基本的課題の整理

### (1) 定住人口の確保

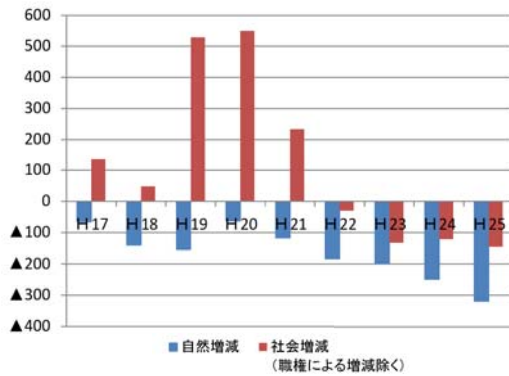
- ・ 転入人口の増加、転出人口の抑制が必要である（特に、若い世代の定住意向の向上）。
- ・ 高齢者が生活しやすい都市づくりが必要である（高齢者の強い定住意向への対応）。

#### ■ 人口と高齢化の状況



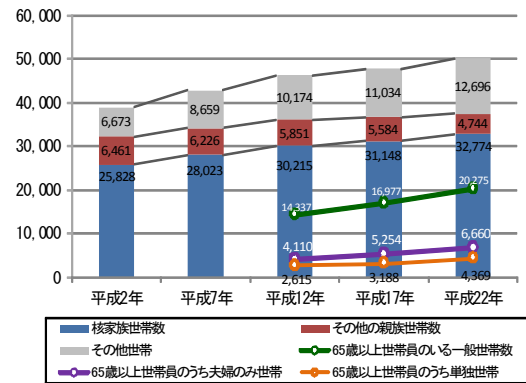
資料：【H22 以前】平成 22 年国勢調査、  
【H27 以降】国立社会保障・人口問題研究所（H25.3 公表値）

#### ■ 人口の自然動態と社会動態の推移



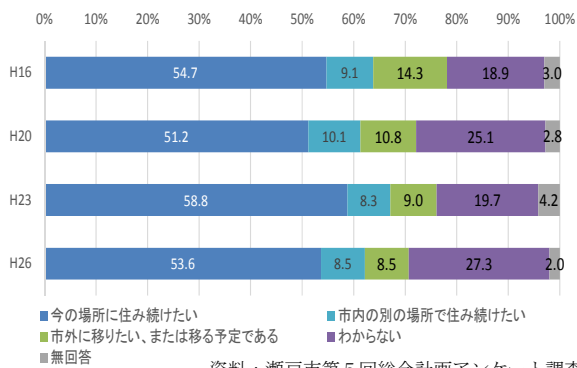
資料：各年次住民基本台帳

#### ■ 家族類型別世帯数の推移



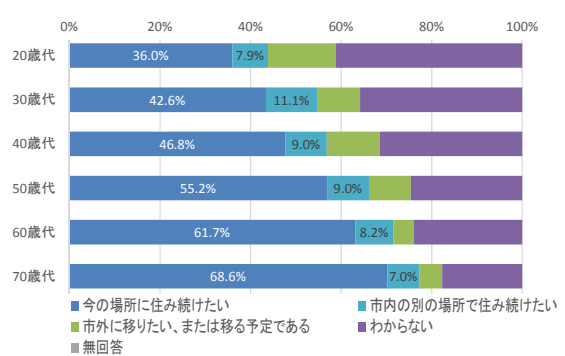
資料：各年次国勢調査

#### ■ 定住意向の推移



資料：瀬戸市第5回総合計画アンケート調査

#### ■ 年代別定住意向

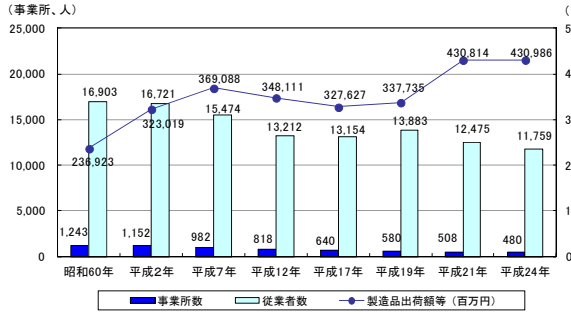


資料：瀬戸市第5回総合計画アンケート調査

(2) 産業の魅力向上

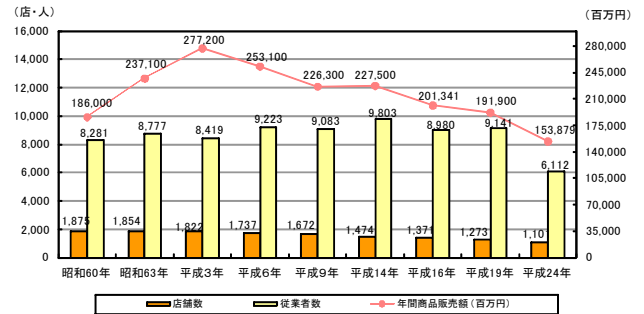
- ・年間商品販売額（市内への外出機会）の増加が必要である。
- ・文化、自然を活用した観光入込客数の増加が必要である（特に、交通の利便性が高い尾張瀬戸駅周辺の施設）。

■ 製造品出荷額等 等の推移



資料：瀬戸市統計

■ 年間商品販売額等の推移



資料：商業統計調査（昭和60年～平成19年）、経済センサス（平成24年）

■ 観光入込客数の推移

施設名	地域名	交通結節点 (1km圏内)	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成24年-平成20年	平成24年 が最多
自然・公園									
1 岩屋堂鳥原溪谷	品野		450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	0	-
1 岩屋堂バンガロー村	品野		2,144	2,221	2,827	2,434	2,633	489	
- 岩屋堂プール	品野		20,082	20,924	26,414	23,474	-	-	
2 定光寺公園	品野		200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	0	-
3 定光寺自然休養林(野営場)	水野		1,314	4,553	4,079	3,560	3,733	2,419	
3 定光寺自然休養林(フィールドアスレチック場)	水野		431	1,033	1,070	872	877	446	
4 定光寺森林交流館	水野		10,844	8,483	9,013	8,788	8,618	▲2,226	
5 定光寺野外活動センター	水野		-	-	-	-	21,440	-	-
6 海上の森センター	幡山		22,400	27,500	24,139	20,583	19,500	▲2,900	
7 自然児童遊園ねむの森	赤津		8,730	10,374	11,669	11,843	11,440	2,710	
8 交通児童遊園	中央		-	90,673	99,069	106,831	100,511	-	
小計			715,945	815,761	828,280	828,385	818,752	938	
陶磁器関連施設									
9 愛知県陶磁資料館(展示館)	幡山		36,010	34,850	49,346	61,272	62,566	26,556	○
9 愛知県陶磁資料館(陶芸館)	幡山		35,784	34,682	35,396	38,125	41,851	6,067	○
10 瀬戸蔵ミュージアム	中央	尾張瀬戸駅	41,965	41,369	33,493	32,052	37,317	▲4,648	
10 瀬戸蔵セラミックプラザ	中央	尾張瀬戸駅	54,575	55,680	51,860	51,530	56,637	2,062	○
11 瀬戸市美術館	中央	尾張瀬戸駅	18,275	16,233	13,588	10,454	11,368	▲6,907	
12 窯垣の小径資料館	中央		12,184	13,757	9,869	11,106	9,458	▲2,726	
13 窯垣の小径ギャラリー	中央		5,561	4,851	3,506	2,864	5,651	90	○
14 瀬戸市新世紀工芸館	中央	尾張瀬戸駅	38,572	41,887	36,682	32,564	25,328	▲13,244	
15 瀬戸市マルチメディア伝承工芸館	中央	尾張瀬戸駅	5,247	6,198	5,738	5,708	6,102	855	
16 ノベルティ・子ども創造館	中央	尾張瀬戸駅	27,565	26,795	23,167	23,037	27,172	▲393	
17 無風庵	中央	尾張瀬戸駅	9,582	7,509	6,787	7,229	7,514	▲2,068	
18 招き猫ミュージアム	中央	尾張瀬戸駅	31,712	29,550	31,562	28,924	26,028	▲5,684	
19 品野陶磁器センター	品野		72,000	78,186	74,992	144,710	97,511	25,511	
19 品野陶磁器センター(陶芸教室)	品野		7,728	7,232	7,031	8,948	6,496	▲1,232	
20 赤津焼会館	赤津		15,560	13,260	5,276	2,996	4,713	▲10,847	
小計			412,320	412,039	388,293	461,519	425,712	13,392	
案内									
21 観光協会 せと案内処	中央	尾張瀬戸駅	11,375	12,851	10,259	10,977	10,638	▲737	
小計			1,139,640	1,240,651	1,226,832	1,300,881	1,255,102	13,593	
22 道の駅しなの	品野		-	-	-	636,400	640,300	-	○
民間ゴルフ場			160,611	151,923	142,701	135,394	122,687	▲37,924	
合計			1,300,251	1,392,574	1,369,533	2,072,675	2,018,089	717,838	

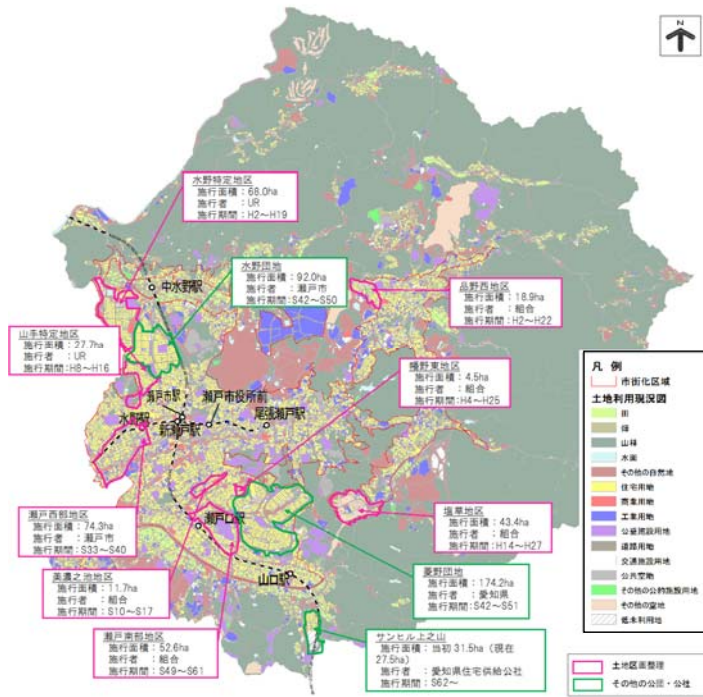
※愛知県陶磁資料館は、平成25年6月に「愛知県陶磁美術館」に名称変更

資料：平成25年度瀬戸市統計書

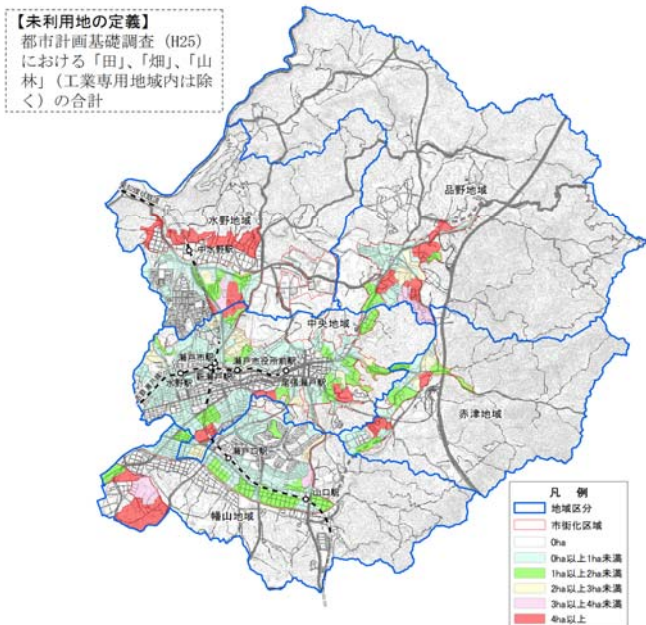
### (3) 効果的な土地利用

- ・市西部に市街地、市東部に主に山林が分布する土地利用の多様性を活用したまちづくりが必要である。
- ・駅周辺等の土地の効果的な活用が必要である。
- ・中心市街地、既存住宅団地の防災性の向上及び更新の検討が必要である。

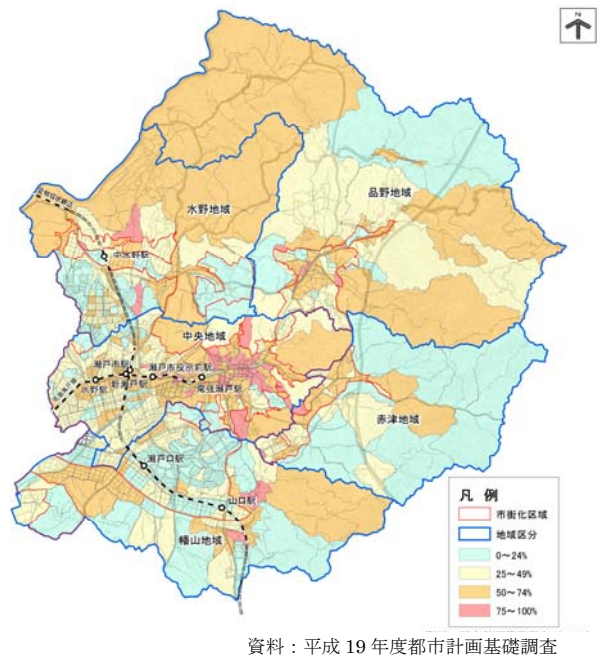
#### ■未利用地分布状況図



#### ■現況の土地利用



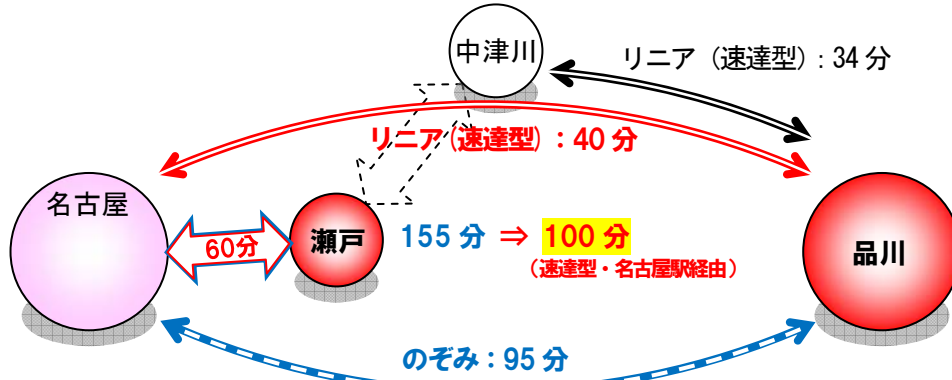
#### ■木造老朽度状況図



(4) 周辺プロジェクトを活用した地域振興

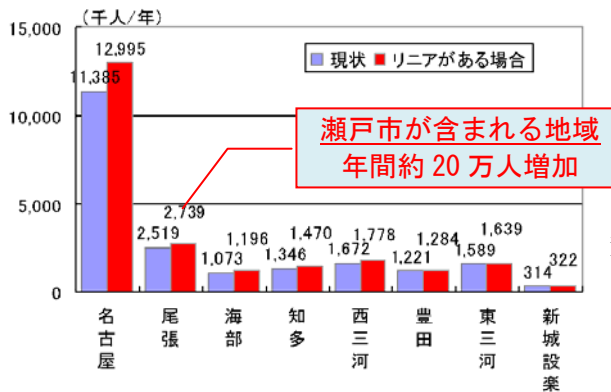
- ・リニア中央新幹線や高速道路の整備等の広域的な骨格道路整備に併せ、広域からのアクセス利便性を高める広域交通軸の検討が必要である。

■ リニア開業による品川駅からの所要時間の変化



資料：リニア中央新幹線影響等調査（平成24年度・愛知県）より作成

■ 地域別旅客流動量の変化



資料：リニア中央新幹線影響等調査（平成24年度・愛知県）を編集

2 都市づくりの基本的課題

(1) 定住人口の確保

- ・転入人口の増加、転出人口の抑制が必要（特に、若い世代の定住意向の向上）。
- ・高齢者が生活しやすい都市づくりが必要（高齢者の強い定住意向への対応）。

(2) 産業の魅力向上

- ・年間商品販売額（市内への外出機会）の増加が必要。
- ・文化、自然を活用した観光入込客数の増加が必要（特に、交通の利便性が高い尾張瀬戸駅周辺の施設）。

(3) 効果的な土地利用

- ・多様な土地利用の活用が必要。
- ・駅周辺等の土地の効果的な活用が必要。
- ・中心市街地、既存住宅団地の防災性の向上及び更新の検討が必要

(4) 周辺プロジェクトを活用した地域振興

- ・リニア中央新幹線や高速道路の整備等の広域的な骨格道路整備に併せ、広域からのアクセス利便性を高める広域交通軸の検討が必要。

### 3 将来交通計画の検証

#### (1) 現行計画道路網

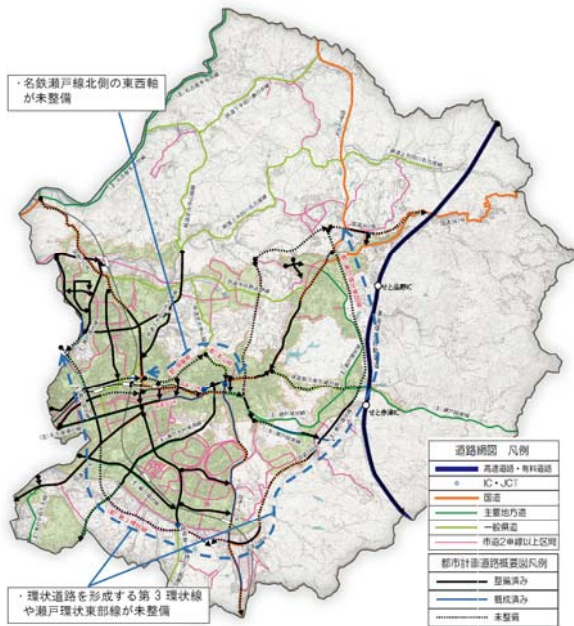
##### ア 現行計画道路網の整備状況

- ・都市計画道路の全延長は約 100 km で、これまでに約 58 km が整備され、整備率は 58% である。  
(国・県事業：43%、市事業：83%)。

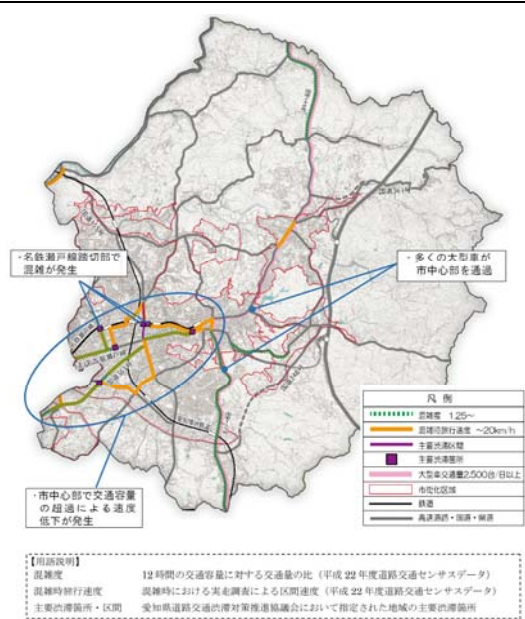
##### イ 現況道路網の問題点

- ・市中心部や西部の国道 363 号及び(主)名古屋瀬戸線において、ピーク時の交通容量の超過による速度低下が見られる。

■ 現行計画道路網の整備状況



■ 混雑の発生と大型車交通量の状況 (現況道路網)



##### ウ 将来の見通し

- ・自動車交通量は今後も同等の水準で推移することが想定されており、現状の交通環境が維持された場合、今後も混雑が発生し続けることが想定される。

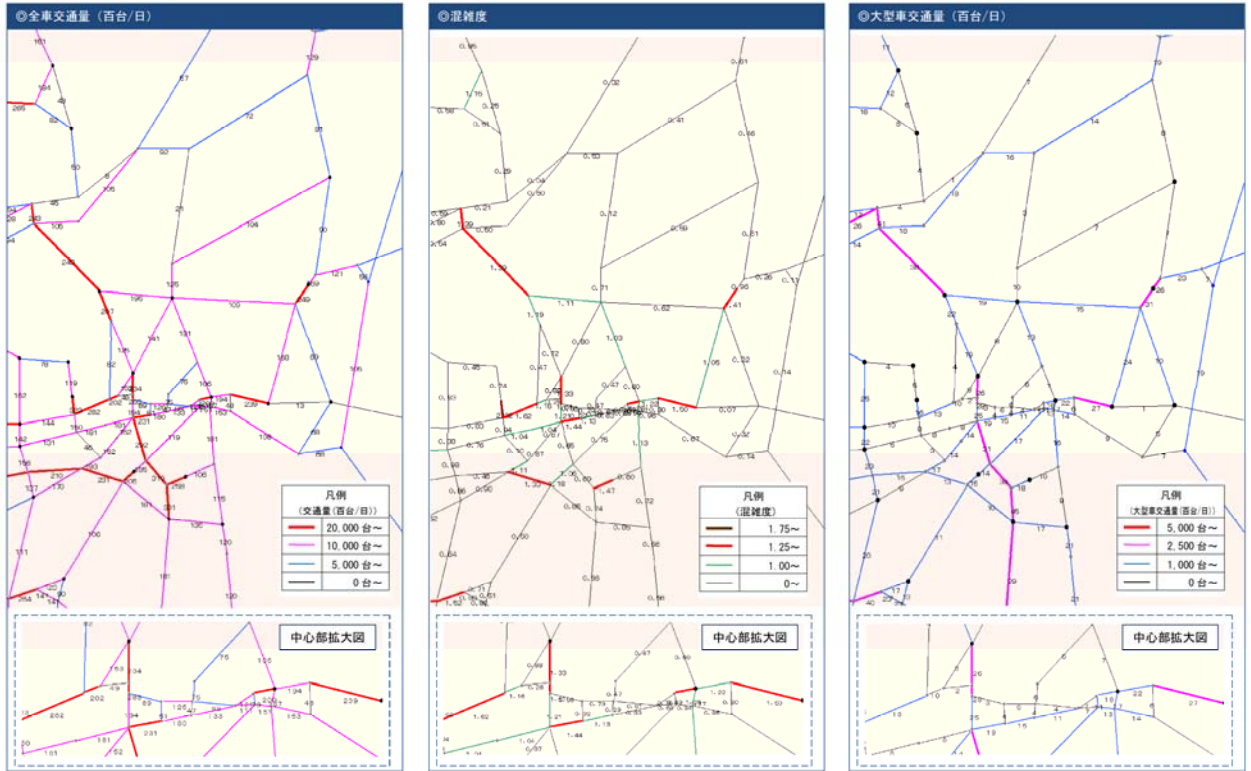
■ 走行自動車台数 (第 5 回 (H23) 中京都市圏 PT 調査将来予測)



## エ 交通量推計による骨格道路網の交通処理の検証

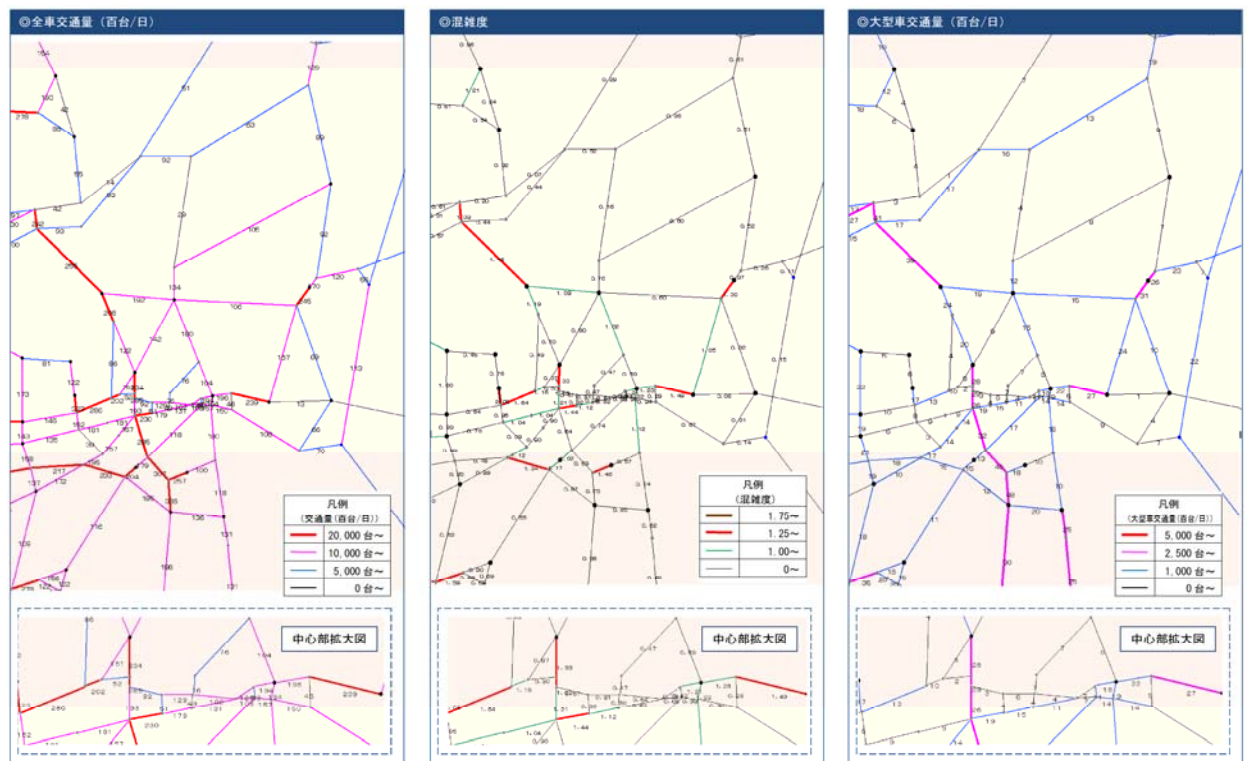
### ■ケース1：現況ネットワーク（H23）×現況（H23）OD

- ・国道 248 号の品野地区や尾張瀬戸駅周辺において、全車交通量や大型車両が多い区間がある。
- ・中心部への大型車の流入が多い状況が見受けられる。



### ■ケース2：現況ネットワーク（H23）×将来（H47）OD

- ・現況のODを配分した場合と大きな変化はない。
- ・国道 155 号や国道 248 号など中心部への大型車の流入が多いため、流入を抑制するための検討が必要である。



## 5 瀬戸市まちなか交通戦略の評価

### (1) 検証項目の概要

目標及び施策の骨子（3つの視点）に基づいて、まちなか交通戦略を評価するための検証項目を6つ設定している。また検証項目ごとに検証指標を定め、H21.6策定時の値に対し、H30将来目標値を検証値として設定している。

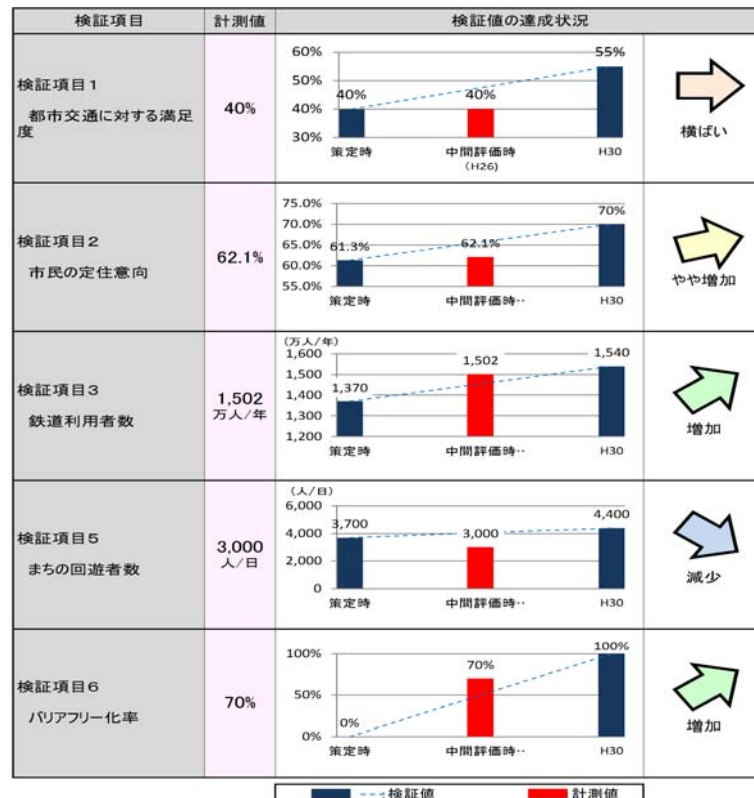
#### ■ 目標及び施策の骨子と検証項目の関係性

目標	検証項目	検証指標	検証値	
			H21.6策定時	将来(H30)
移動しやすい住みやすいまち	検証項目1 都市交通に対する満足度	※戸市の交通環境に関するアンケート調査の交通手段別満足度の設問において、手段別に「満足」「まあ満足」と感じる人の割合の平均値	40%	55%
	検証項目2 市民の定住意向	※合計画アンケート調査の定住意向の設問において「今の場所に住み続けたい、市内の別の場所で住み続けたい」と回答した人の割合	61.3%	70%
3つの視点				
視点1 利用しやすい公共交通システムの整備 (市全体の連携・移動)	検証項目3 鉄道利用者数	市内鉄道駅8駅の年間利用者数の合計	1,370 万人/年	1,540 万人/年
視点2 瀬戸市の交通及び生活センターとしての拠点機能を支える交通基盤の整備 (新瀬戸駅・瀬戸市駅周辺)	検証項目4 駅や病院への移動時間	品野(品野支所)からの所要時間	20分	18分
		赤津(赤津交差点)からの所要時間	17分	12分
		※陣屋線等の整備完了時 愛野(愛野団地)からの所要時間	10分	8分
視点3 行ってみたいなる、歩きたくなる歩行空間や生活環境の形成 (尾張瀬戸駅周辺)	検証項目5 まちの回遊者数	3階めぐり開催日(平日)の歩行者数(商店街内の9断面)	3,700 人/日	4,400 人/日
	検証項目6 バリアフリー化率	生活関連経路全延長(約2.6km)の整備率	0%	100%

※検証項目4は、陣屋線等の整備完了時の評価であり、当該路線が現在事業中のため対象外とする。

### (2) 検証値の達成状況

- ・ 検証項目3と6については、目標達成に向け、順調に検証値が増加している。
- ・ 検証項目1と2については横ばいまたは微増、検証項目5については基準年(H21)から検証値が減少している。



・検証項目6 バリアフリー化率の検証として、生活関連経路のバリアフリー化のほか、公共交通施設や交通安全関連事業など、ソフト・ハード両面の施策を推進してきた。この成果と課題と関係者のヒアリングから検証した。

### ■事業の概要と実施状況

事業項目	主な事業内容	実施主体	実施予定時期	実施状況	実施内容	
公共交通関連	旅客施設	名古屋鉄道新瀬戸駅のバリアフリー化	名古屋鉄道㈱	H22	完了 (H21～22)	・エレベーター、多機能トイレ等の整備
		愛知環状鉄道瀬戸市駅のバリアフリー化	愛知環状鉄道㈱	H22	完了 (H21～22)	・エレベーター、多機能トイレ等の整備
	車両	バリアフリー対応車両の導入(鉄道)	名古屋鉄道㈱ 愛知環状鉄道㈱	継続実施	継続実施中	・現在稼働中の車両は全車対応済み
		バリアフリー対応車両の導入(バス)	市内バス運行会社	継続実施	継続実施中	・現在稼働中の車両は全車対応済み
情報提供・人的対応	よりよい情報提供の充実	交通事業者	継続実施	継続実施中	・バスロケーションシステムの運用(名鉄バス、瀬戸市)	
	社員に対する教育、訓練の充実	交通事業者	継続実施	継続実施中 (H21～)	・社員に対する資格取得のバックアップ(社内制度化)	
道路関連	生活関連経路(L=2.6km)の整備	愛知県瀬戸市	H22	継続実施中 (H22～)	・1.8km整備済み <b>※70%整備済み(検証項目6の計測値)</b>	
	生活関連経路(推進)(L=0.4km)の整備	瀬戸市	継続実施	継続実施中 (H22～)	・(都)障屋線整備中	
	準生活関連経路(L=1.2km)の整備	愛知県瀬戸市	継続実施	継続実施中 (H21～)	・0.8km整備済み	
	新瀬戸駅南北連絡通路	瀬戸市	H22	完了 (H21～23)	・連絡通路の改良 ・エレベーター、エスカレーターの整備	
駅前広場	瀬戸市駅前広場	瀬戸市	H22	継続実施中 (H22～)	・段差や急勾配の解消 ・基本計画の策定	
	新瀬戸駅南口駅前広場	瀬戸市	H22	完了 (H24～25)	・駐輪場、一般車乗降場、障害者優先乗降場、タクシー乗り場等を確保	
	信号機等	バリアフリー対応信号機の導入	愛知県公安委員会	H22	継続実施中 (H22～)	・視覚障害者対応信号機の整備(4交差点)
交通安全	エスコートゾーンの整備	愛知県公安委員会	継続実施	継続実施中 (H22～)	・エスコートゾーンの整備(4交差点)	
	違法駐車	違法駐車防止	愛知県公安委員会	継続実施	継続実施中 (H9～)	・違法駐車等防止重点地域の指定(H9指定、H12区域変更)
その他事業	ソート事業	バリアフリーに対する意識の向上などの啓発等の推進	行政	継続実施	継続実施中	・障害者に対する福祉制度や各種手帳等の周知(瀬戸市) ・広報などによる各種行事への参加促進(瀬戸市) ・障害者啓発週間(体験作文、ポスター作品募集等)(内閣府)
		不法駐輪、駐車対策、路上看板等に関する指導及び啓発等	行政	継続実施	継続実施中	・違法駐車等防止重点地域の指定(H9指定、H12区域変更) ・委託業務による駐輪の整序化の実施(瀬戸市) ・路上駐輪に係る予防広報(瀬戸市)
		ボランティアの育成	行政 市民	継続実施	継続実施中	・ボランティアによる視覚障害者の院内の案内・誘導(公立陶生病院)
		社員に対する教育、訓練の充実(再掲)	交通事業者	継続実施	継続実施中 (H21～)	・社員に対する資格取得のバックアップ(社内制度化)
		よりよい情報提供の充実(再掲)	交通事業者	継続実施	継続実施中	・バスロケーションシステムの運用(名鉄バス、瀬戸市) ・点字案内板の設置(瀬戸市)
		特定建築物等を新築、増築等を行う際の建築物内滑化等基準等への対応に関して周知、助言、指導	行政	継続実施	継続実施中	・重点整備区域内のバリアフリー化

・ヒアリングによる確認として、利用者である地元団体、施設管理者を対象に実施した。

### ■ヒアリング対象者

- ・新瀬戸駅・瀬戸市駅周辺バリアフリー基本構想策定部会の委員の地元団体
- ・愛知環状鉄道(株)、公立陶生病院、市立図書館、やすらぎ会館、瀬戸市役所

### ■バリアフリー化の効果

- ・新瀬戸駅南北連絡通路の整備により、階段を使わずに移動できるようになり利便性が向上した。特に、高齢者や障害者、ベビーカー利用者等にとっては、バリアが排除され移動しやすくなった。
- ・新瀬戸駅南口駅前広場の整備により、乗換え利便性が向上した。また、駅前広場内に身障者優先の自動車乗降場を確保したことにより、身障者が安心して利用できるようになった。
- ・生活関連経路の段差解消等により、歩きやすくなったと感じる部分が多くあった。

### ■重点整備地区内のバリアフリー化に関する要望

- ・駅前広場における上屋、送迎スペース、休憩スペースの設置
- ・名鉄新瀬戸駅と愛環瀬戸市駅を直結する連絡通路の整備
- ・名鉄瀬戸市役所前駅と公立陶生病院との移動経路上の円滑化
- ・心のバリアフリーの促進  
(現状の問題として、点字ブロック上に通行を妨げるものが置かれている(店舗の商品陳列等)、多様にある障害の特徴が十分理解されていないとの指摘があった)

### ■今後のバリアフリー化に関する意見

- ・重点整備地区内の継続的なバリアフリー化とともに、地区外での取組みが必要
  - ▶ 歩行空間の安全確保(歩道整備、歩道の段差解消、照明施設の設置等)
  - ▶ 他の鉄道駅の改良(名鉄水野駅等)
  - ▶ バス交通サービスの改善



## 6 都市交通マスタープラン骨子案（交通施策（案）の抽出）

### (1) 対応すべき交通課題の整理

#### 定住人口の確保

- 安全で快適な居住環境の構築を支援する交通環境の整備
- 高齢化に対応する交通環境の構築
- ピーク時の円滑化を実現する交通環境の整備
- 多様な交流を促す交通環境の整備

#### 産業の魅力向上

- 安全で円滑な物流環境を確保する交通環境の整備
- 観光客の移動円滑化を実現する交通環境の整備
- 陶の路等の歴史・文化資源・自然を活用し、楽しみながら移動できる道路空間の確保

#### 効果的な土地利用

- 安全で適切な土地利用を誘導するためのネットワーク形成
- 多様な生活環境の構築を支援する交通体系の整備

#### 周辺プロジェクトを活用した地域振興

- 都市間移動の円滑化を実現する交通体系の整備

### (2) 交通施策（案）の抽出

#### ■自動車交通施策（案）

①環状道路の整備
②放射道路の整備
③幹線道路の整備
④交差点の改良等
⑤踏切の混雑緩和
⑥自動車交通事故対策(カー化)
⑦環境負荷の少ない交通行動の促進

#### ■自転車（案）

①連続的な自転車空間の整備
②自転車利用ルールの周知活動

#### ■歩行空間（案）

①安全な歩行空間・生活空間の整備
②歩行者交通安全施設整備
③回遊空間の高質化
④緑化整備

#### ■公共交通（案）

①広域ネットワークの機能強化
②市内基幹バスネットワークの維持・改善
③地域公共交通の維持・改善
④交通結節点の機能強化

#### ■共通施策（案）

①交通安全意識の向上
②公共交通の利用促進
③駐車場の附置義務の見直し検討
④交通環境のバリアフリー化
⑤交通による観光振興